

支店長席

「三現主義」「凡事徹底」で運営

東京都、千葉県、神奈川県、山梨県の1都3県を営業範囲とし、日本道路の受注全体の2割を占める基幹支店のかじ取りを託された。支店運営に当たっては「三現主義、日本道路常務執行役員 東京支店長

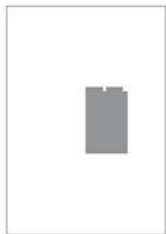
澁谷 博志氏



義は「凡事徹底」を挙げる。三現主義は「現場で利益を上げる会社であり、現場に即したことが重要で、机上の理論ではだめ。現地に出向き、現地の空気感を理解した上で指導や判断をしなければならぬ」とし、凡事徹底は「安全の取り組みなど、当たり前なことを当たり前に行うこと」と強調する。

働き方改革の取り組みにも注力する方針だ。事業面では、都市再開発の需要を1つのターゲットに、受注に向けて「既存ノウハウの活用に加え、技術レベルをさらに向上させる」と力を込める。清水建設の連結子会社となり、シナジー発揮のため「これまで取り組めなかったことも視野に入れ、従来の延長線だけではない事業も常に検討しながら進めていきたい」と先を見据える。

1983年3月群馬大工学部建設工学科卒業、同年4月日本道路入社。東京支店西東京営業所長、同横浜営業所長、中部支店次長、執行役員北信越支店長、同中国支店長などを経て4月1日から現職。趣味はソーリング。静岡県出身、61歳。



建設通信新聞

2022年05月18日 004面 01版 No. 06